

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第298回)

日時 平成28年4月5日(火)午後1時半～4時

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第6会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第6会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、三次元物理探査船「資源」の活動・調査結果について

解説 資源エネルギー庁 石油・天然ガス課 斉藤秀幸課長補佐

3、『新エネルギー関連ニュース NO. 154』

解説 中島稔新エネルギー委員長

報告 去る3月3日開催の第298回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、中島稔委員長より「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題してお話がありました。4月から電力自由化がはじまる。日本では近年、事業向けで40%、家庭向けで25%も電力料が上昇しており、自由化による価格の低下の期待が高まっている。すでに1000社以上が参入を表明しているが、電圧が不安定になったり、停電したりするリスクがあることを認識しておくべきだ。そこで、いま急いで契約するのではなく、よく事業者を見極めた上で、8月以降に決めた方がいいのではないかと考えている。

次に、東京大学大学院工学系研究科の杉山正和准教授より、「太陽光エネルギーで世界最高効率の水素製造技術」と題して解説がありました。現在水素は、主に化石燃料から生成しているが、将来的には再生可能エネルギーで水を電気分解して生産していくのが望ましい。その水素利用のモデルは2つある。1つ目は、太陽電池や風力発電でつくった電力で水電解セルによって水素をつくる方法。これを貯蔵しておいて、発電できない時間帯に水素で発電するシステム。住宅地や工場などで電気を自給自足するものだ。2つ目は、再生可能エネルギーの適地で水素を製造して、エネルギーの消費地へ運ぶ方法。こちらは世界規模のエネルギーシステムとなる。先生のグループが開発したシステムは、高効率な集光型太陽電池と水電解セルを直接接続して水素を生み出すもので、どちらのモデルにも適合する。太陽電池の出力と電解セルのバイアスの最適値で接続することなどにより、24.4%という世界最高の高効率によるエネルギー変換を実現した。今後は、化石燃料由来の水素のコストとの戦いになる。太陽電池用素子の効率アップやエネルギー損失が少なく長寿命な水電解装置の開発により、5～10年ほどの間には、コスト面でも化石燃料由来に対抗できるようになると考えている。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.153』の解説がありました。今回は、○風力熱発電に期待。風力から熱をつくり熔融塩として蓄え、その熱でタービンを回して電気をつくる。一定ペースで発電機に熱を供給できるので安定した発電が可能。○国内の風力発電能力が、2年連続の20万キロワットの新設により、316万キロワットに。○資源エネルギー庁はメタンハイドレートなどの地質サンプル取得のため、掘削調査を実施。○岩手の漁港で波力発電が今夏稼働へ。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次回、4月5日（火）の新エネルギー委員会に

出・欠（いずれかに○印）

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320
両団体専務理事兼事務局長 清原淳平

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp